

韓国仏教の現状と今後の展望

愛知学院大学教授
東大名誉教授

鎌田茂雄

韓国の花まつり

韓国の花まつり、つまりお釈迦さまの誕生会は、旧暦の四月八日に全国各地の寺院で盛大に行われ、当日々たくさんのお信者で賑わう。しかもその日は国家が正式に制定した祝日なのである。

や各民家にも取り付けられる。寺院境内の蓮灯は信者が奉納したもので、自分の名前や生年月日などをそれに書く。値段によつて各種のサイズがあり、金持ちたちは当然大きい蓮灯を奉納する。大きな寺院などは蓮灯が多くて本堂が埋もれて見えないほどである。

当日は朝から僧侶が読経や五体投地の礼拝などの儀式を行う。日本ではお釈迦さまの像に甘茶をかけるが、韓国では水をかける。そして大

まず目につくのは、蓮灯と呼ばれる色とりどりの提灯で、これが寺院の境内はもとより街頭



奉納された蓮灯

きな寺院などでは、韓国の伝統的な踊りの一つである僧舞(そうぶ)が境内で演じられる。これは人間国宝とでもいべき、この道の専門家が静かに優美に踊るもので、観客が信仰心を起こす程のすばらしい宗教的な舞である。

さらに仮誕会での韓国独自のものとしては掛け仏がある。これは木の柱一本を立てて、その間に仮画を描いた幕を張る。巨刹では実に縦二〇メートル、横一〇メートルもの巨大な掛け仏が立てられ、大勢の信者達が色とりどりの民族衣装で正装してその前に集まり、掛け仏に向かって五体投地の礼拝を百八回繰り返すのである。この掛け仏は日本の仏教ではあまり行われないが、中国のチベット系仏教の寺院では、これと同じような仮像を描いた大きな幕を山の上に張り、信者がこれを礼拝している。

信者たちは山海の珍味をはじめお菓子、果物などを持つて朝から続々と寺に集まり、法要に

参列したり、僧舞を見たり、寺の用意した精進料理をいただいたりして、お釈迦さまの誕生をお祝いするのである。

そして午後八時頃になると、誕生会のクライマックスともいべき蓮灯行列が始まる。カラフルな蓮灯を手にした信者や大学生、子供たち、そして僧侶が列をなして寺院をつぎつぎと出発し、約三、四時間かけて市内を一巡する。それは光が満ちあふれたもつとも華やかで美しい一夜である。

慶州の名刹、仏国寺には有名な釈迦塔と多宝塔がある。この美しい仏塔の周囲を回るのが「塔回り」である。まず一人がまわり始めると、あつという間に塔は信者で何重にもとりまかれてしまうという。塔回りをする人はみな、灯のついたローソクを持っている。塔回りはお釈迦さまへの献灯の儀式でもある。闇につつまれた吐含山の麓の仏国寺境内を埋めつくす何千という



掛け仏



一年中参拝者でにぎわう仏国寺

仏さまへの献灯の火のかもしだす風情と、善男善女が唱える念佛の声は、まさしくこの世の仏国土であり、淨土であるといえよう（小坂泰子氏「石仏と祈り」世界日報、平成二年五月十三日号参照）。

韓国の仏教宗派

現在の韓国の宗教人口は圧倒的にキリスト教が多い。都市でも田舎へ行つても、どんなところにも十字架を立てたキリスト教の教会がたつていて。山深い由緒ある佛教寺院の近くにも必ずといってよいほど、キリスト教の教会がある。キリスト教は六・一二五動乱（朝鮮戦争）後、アメリカ軍の進駐とともに急速に勢力をのばしたものである。

もともと韓国には、昔し檀君神話にみられるような一神教を奉ずる精神的風土がそなわつており、絶対的な神格を信仰する傾向があつた。

このような素地を背景として、キリスト教が農民運動や労働運動をはじめとし、社会事業や、貧民救済事業などの社会活動に積極的に参加し、さらに政治的には民主化の問題や、南北統一問題についても、キリスト教の神父や牧師が積極的な発言と行動力を發揮してきた。

これに対して仏教は歴史的には朝鮮朝の時代に大きな弾圧を受けた。儒教、とくに朱子学をもつて国教とした朝鮮朝では、仏教は社会的に進出することははばまれ、寺院は都市から追放されて、深山幽谷の中に閉じこめられてしまつた。そのため社会的活動は禁止され、僧の生活もまた墮落せざるを得なかつた。寺院はたんに山水遊覧の場にすぎず、信仰の対象ではなくなつたのである。

一九四五年、第二次世界大戦が終わり、大韓民国が独立してから、韓国の仏教は日本仏教の宗派の支配と影響を全面的に否定して、新しい

出発をした。日本帝国主義のもとに作られた寺刹令と三十一本山末寺法などは全面的に廃止され、中央に朝鮮仏教総務院がおかれ、全国の寺院を統轄した。

一九五〇年の六・二五動乱によつて歴史的に有名な多くの寺院が戦火のために焼失した。しかし動乱後、仏教徒のあいだに自覚がたかまり、韓国仏教は独立、自立の道を本格的に歩みはじめた。その第一歩は、妻帯僧の追放であった。その妻帯派と非妻帯派に分かれた教団は互いに紛糾を続けたが終結し妥協がはかられた。

現代においては曹溪宗をはじめとし、太古宗などの大きな宗団を中心とし、その他、新興宗団として円仏教をはじめとし、真覚宗、元曉宗、韓國佛教法華宗、華嚴宗、天台宗、淨土宗など多くの教団が独立し、それぞれ布教活動をしてゐる。

禪の根本道場—松広寺

韓国の全羅南道昇州郡にある松広寺は、三十一大本山の一つである。全羅南道には求^{クレ}礼の華嚴寺、海南の大興寺、順天の仙岩寺、長城の白羊寺などの大刹^ゴが多いが、何と^トいっても松広寺は風光明媚にして、寺塔も多く、巨刹^ノの名にふさわしい。松広寺は泉石幽邃な、俗塵を絶つたところにある寺で、その堂塔伽藍も長い間の風磨雨蝕をへて、仏国寺のようなはなやかな色彩はないが、かえつて紛華を一洗した森厳の氣がある寺である。寺域をかこむ山林には老樹が密生し、その間に堂宇が点在し、清流が渓谷を洗つている。この渓流は曹渓山の西麓を東から西へ流れて蟾津江^{ソムジンガ}に合流する。その渓谷は深く、透明な水とともに至るところに絶景をつくつている。

松広寺の門前から山道へ入ると、まもなく渓

流の上に虹橋^{にじばし}がかかる。これは今から二百年ぐらいためにできたものだが、煩惱をとり除いて仏法の清涼水を飲む入口であるから清涼閣^{ククレ}という。虹橋の上に羽化閣^{カハ}があるが、この下を流れる渓流の水量は豊かで、清冽な水が奔流している。

松広寺は禪の根本道場^{コトハツドウジョウ}といふ意味においては、日本の曹洞宗の大本山永平寺や、京都五山や鎌倉五山などに匹敵する。とくに永平寺の參禪道場としての風格に、もつとも類似しているのが、この曹渓山松広寺であるといつてよい。

現代においても、米国やヨーロッパの外国人をもまじえて、多くの韓国の僧たちが修行している。外国人も韓国の僧と同じように僧衣を着用し、袈裟^{ケキ}をつけて坐禪をしているのであり、この姿には真摯な求道者の面影が宿っている。

三宝の寺とは

この修行道場こそ曹渓宗のふるさとであり本山である。現在の曹渓宗には二十四本山が所属している。二十四本山とは、曹渓寺（總務院直轄）、竜珠寺、乾鳳寺、月精寺、法住寺、麻谷寺、

修德寺、直指寺、桐華寺、銀海寺、仏國寺、海印寺、雙溪寺、梵魚寺、通度寺、孤雲寺、金山寺、白羊寺、華嚴寺、仙巖寺、松廣寺、大興寺、觀音寺、禪雲寺である。私もかつてソール市鐘路区にある曹渓寺には何度も訪問し、法要や儀式を見せて頂いたことがある。今から二十年ぐらいい前、秘苑の前の雲堂旅館（現在はない）に宿泊し、朝三時に起きて曹渓寺の朝課に参加したことがある。雲堂旅館というのは純韓国式の旅館であり、私は必ずここを宿とした。従業員が誠実で、親切であること、料理がおいしいこと、名園秘苑の近くにあるので散歩によいこと、

料金が安いことなどで、私が韓国の食事や人物に接した始めての旅館であった。慶州とか智異山とか遠方に調査に行くときも、必ずこの雲堂旅館に宿泊して荷物をあずけ、地方へ出張したものである。それは韓国の寺刹を訪ねるためであつた。

韓国には三大寺刹というものがある。三大寺刹とは三宝の寺のことである。仏教で三宝といふと仏宝、法宝、僧宝の二つをいうのであるが、その三宝に三つの寺をあてはめたのである。仏宝の寺が通度寺、法宝の寺が海印寺、僧宝の寺が松廣寺である。その理由は通度寺には仏舍利が祀つてあるので仏宝の寺といわれる。通度寺には本尊がなく、その主尊は境内の奥にある舍利塔である。お釈迦さまの真骨が祀られているというのである。通度寺を創建したのは新羅の慈藏法師といわれているが、慈藏が唐から帰国する六〇〇年前後には、隋の文帝が國中の寺に

舍利を奉送し、舍利塔を立てた。このとき、高句麗、百濟、新羅の使者が舍利を頂きたいと、文帝に願いでたら、文帝がそれを許し、舍利を朝鮮古代三国に下賜したということが伝えられており、仏舍利が新羅に来た可能性はあるのである。伝説では通度寺の舍利塔に祀られている仏舍利は、新羅の慈藏が中国の五台山の文殊菩薩より授けられたものといわれている。

韓国の寺はどこへ行つても自然の風光が美しい。智異山の華嚴寺も、俗離山の法住寺も、山は深く、巨岩と森林と清流と巨樹とが見事に形づくった自然の中に、本寺とこれに付随してい

る庵室が、森林の中にひつそりしたたずまいを見せている。そこには昔の高僧の事跡が名残をとどめ、歴史と自然とが混然と一つにとけあつてゐる。法寶の寺、海印寺も深い山あいに建つてゐる寺である。

海印寺は、慶州南道の陝川郡伽倻面にある寺である。大邱からバスで三時間近くかかる深山幽谷にある。山あいをぬつて奔流する渓流や、渓谷の美はまた格別である。とくに十月末から十一月の初めにかけての紅葉の季節には全山紅葉し、真紅に燃えたつようである。ことに早朝、東の空がかすかに白みかかってから、朝日の光が寺域を映しだす時、寂として静まりかえつてゐる海印寺の全景がもつともすばらしい。早朝二時半に起床し、洗面をすませ、三時からの朝課に参列するときも幽玄と静寂のたたずまいを見せてくれる。

海印寺は法寶の寺であるといわれる。何故ならば八万大藏經を収蔵しているからである。大寂光殿の背後の急な階段を上ると、そこに大藏經を収めた經藏がある。土壙をめぐらした中に板庫が建つてゐる。南北二棟に分かれた板庫は、共に正面十五間、側面一間の細長い建物が中庭をはさんで建つてゐる。中庭をはさんで東西に



海印寺

向いあつて小庫が建つ。板庫の中には高麗大藏經の版本が収められ、小庫の中には雑版を收めており、觀世音菩薩の立像の版本もあつた。静かな中庭に立つてみると、建物の配置の均衡がよくとれており、實用本位の經藏は、裝飾的なものをすべて取り去つたすがすがしいものである。

板庫の内部に入ると、膨らみのある柱が立つて、そのあいだには、ぎつしりと大藏經の版本がつまつていた。板庫の内部は八万枚余りの版本を入れているだけあって、広々とした空間をとつていた。

この高麗大藏經は、高麗の高宗代に刊行されたものである。江華島に収蔵されていた大藏經は、李朝の太祖七年（一三九八）五月、一たんソウルの支天寺に移され、さらにその年のうちに海印寺に運ばれた。伝説によれば海印寺に移されたのはすべて人力によつたということであ

る。大蔵經の經版を一枚ずつ人間の頭の上にのせて、ソウルより慶尚北道の伽倻山海印寺までの長い道程をたどったといわれている。現在、

海印寺の經藏にある高麗大蔵經には、韓国民衆の尊い汗がしみこんでいるのである。

僧宝の寺、松廣寺についてはすでに述べた通りであり、仏法僧の三宝の寺を現在、なお維持しているところに韓国佛教の特徴がある。

信仰のあかしこそ未来を開く

以上、韓国の花まつり、坐禪の修行や三宝の寺について述べてきたが、韓国佛教は朝鮮朝時代の仏教弾圧や、日帝時代の統制や弾圧があつたが、今なお、たくましいエネルギーを秘めながら長い歴史の伝統を継承しつつ独自な佛教を維持しているのである。

朝鮮朝時代、山に追われた寺院や、大韓民国独立以後、キリスト教の教会にともすれば圧迫

された佛教界も、今では社会活動の面でも積極的な活動を展開している。

教育活動についても、大韓佛教曹溪宗は東國大学校をはじめとして、数多くの高等学校や中学校を経営しているし、円仏教では円光大学校をはじめ多くの学校や、孤児院、養老院などを経営している。その他、奨学財団などを運営し、学生に奨学金を支給したりしている。

また佛教史や仏教学の研究書の刊行も目ざましく民族社などを中心として、勝れた研究書が数多く刊行されている。韓国佛教研究のためには、これらの韓国の学者の研究書をどうしても読まなければならぬ。

金知見博士の主催する大韓伝統佛教研究院は十回に及ぶ国際学会を開催し、国際交流のことで佛教研究をたえ間なく前進させ、日本の学会にも大きな影響を与えた。

このような学術研究の面のみでなく、一般の



五体投地する信者たち

人々の信仰の力が韓国仏教の将来をささえるものと信じる。韓国の大好きな寺院の仏殿の前でしばらくたたずんでみよ。必ず信者の婦人が五体投地の礼拝をして、一心に祈願する姿が見られる。その礼拝は日本ではほとんど見ることができない五体投地の礼拝なのである。この真摯な礼拝の姿こそ、韓国仏教の未来を暗示している。

ほんとうの信仰に生きた人々がいる限り、その宗教には未来があると私は信じる。たとえキリスト教の信者のほうが人数は多くてもよい。お釈迦さまの誕生会に集まる信者たちの熱気や、国際学会の公開講演会を聴講する何百人の信者たちの真摯な姿や、寺院に五体投地する敬虔な信者がいる限り、韓国仏教の将来には前途洋々たるものがあるはずである。

